

SIFA ニュース



NO. 125

2025 年度 夏号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

外国につながる児童の夏休みの宿題支援教室

外国籍の保護者の中には、日本の宿題の経験がなく、お子さんに質問されても答えられない事が多くあります。そこで、6年前よりこの教室をスタートさせ、子どもたちが安心して学習に取り組めるよう支援してきました。



さまざまな学校に通う子どもたちが参加するため、新しい友達ができたり、少しずつ宿題に向き合うことで達成感を得られたりすると、子どもたちや保護者からも好評をいただいています。

今年は、桜島小学校、ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿、鈴鹿工業高等専門学校の3会場で、夏休みの宿題支援教室を開催します。

ボランティアのみなさまと一緒に、今年も子どもたちに寄り添いながら、楽しく意義のある教室をつくっていきたいと思います。

内容

[お知らせ]

- 夏休みの宿題支援教室
- ベルフォンテンからの訪問団

[報告]

- わいわい春まつり開催
- 日本語ボランティア養成講座
- ペルー料理の紹介
- チャレンジキッチン ペルー料理



この夏ベルフォンテンから訪問団がやってくる！！

7月30日、友好都市であるアメリカ・オハイオ州ベルフォンテン市から、中高生7名と引率者4名、計11名が鈴鹿にやって来ます。

滞在は5泊で、その間、2日間の公式日程をこなしながら、日本の家庭での生活も体験します。

つい先日、お世話になるホストファミリーも決まり、今月末の顔合わせに向けて、現在準備の真っ最中です。

ベルフォンテンのメンバーも、日本語での自己紹介練習やプレゼンテーションの準備など、来日に向けた研修に一生懸命取り組んでいるようです。

今回の交流が、ベルフォンテンメンバーや、ホストファミリーのみなさんにとって、夏のかけがえのない思い出となるよう、心を込めて準備を進めてまいります。そして、このプログラムを通して、鈴鹿市とベルフォンテン市の絆がさらに深まることを願っています。

秋号では、受け入れの様子を報告しますので、ぜひご期待ください。



鈴鹿国際交流フェスタ 2025

わいわい春まつりを開催しました

天候に恵まれた5月18日(日)、ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿（鈴鹿市文化会館）と西条中央公園にて、約 1,500 名の方にご来場いただき開催することができました。

昨年の 12 月から月に一回実行委員会を開催し企画しました。全館貸し切りにして、色々な国の音楽や踊り、食、体験で盛り上がりました。

来場者に呼びかけ、合計 18,742 円の募金が集まりました。集まった募金は 日本赤十字社三重県支部へお届けしました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



ステージ、エントランスでの各国のパフォーマンス



2階、3階の体験コーナー、1階の鈴鹿市の啓発コーナーの様子



8ヵ国20店舗の美味しい屋台や楽しいブースが並び、西条中央公園、ロータリーと館内をにぎわせました。



抹茶体験
のスタッフ

スタッフの皆様、ありがとうございます

以下は、わいわい春まつりで頑張ってくれた実行委員さんの感想です♪



劉 武征さん

実行委員として 4 回目の参加でした。毎年準備と反省を重ねていますが、必ず新しい課題が見つかります。それでも、多国籍な文化が交流し、来場者も委員も笑顔になれるわいわい春まつりに関わって、とてもやりがいを感じました。今後も地域と世界をつなぐ場を大切に、皆が安心して楽しめるイベントを目指します。



田中 芹愛さん

飯野高校からの実行委員として参加させていただきました。私は主にステージのファシリテーター関係とアクセサリー作りコーナーの企画を担当しました。ステージでは、ボランティア確保や日程調整が大変でしたが、観客もボランティアの子達も楽しんでくれていたので嬉しかったです♪ アクセサリー作りでは材料準備や人手集めなど一から担当させていただき、当日はピーズがなくなるほどお客さんが来てくれて、とてもやり甲斐を感じました！



吉川 心さん

今回、私は飯野高校から実行委員としてこのお祭りの企画・実行を担当し、とても実になる経験を得る事ができました。私は茶道コーナーを担当しましたが、何度も見学や会議を行い、家で毎日何時間も練習や構想を重ねました。どれも初めての体験でしたが、一から企画し、多くの人に楽しんで頂けるよう工夫した経験は、一生の宝物になると感じています。

日本語ボランティア養成講座

5月31日(土)から6月28日(土)までの5週間にわたり、「ハヤシユナイテッド文化ホール鈴鹿」にて日本語ボランティア養成講座を開催しました。今回の講座には16名の申し込みがあり、そのうち12名の方に修了証をお渡しすることができました。

講師には、鈴鹿大学の舟橋教授、棧敷准教授、花村助教、音成助教をお迎えし、生活場面における日本語をテーマに講義を進めていただきました。内容は、話しやすいテーマさがし、「やさしい日本語」でのコミュニケーション、質問の工夫による話題の広げ方、日本人役と外国人役に分かれての活動づくりなど、多角的な実践を取り入れたものでした。

最終日には、実際に外国人市民や留学生にも参加していただき、受講者が準備したテーマでのコミュニケーション活動を行いました。45分の会話を2回行い、「食べ物の話で盛り上がった」「スマートフォンで写真を見せてもらえた」「外国人の行動力に驚いた」「外国人が会話をリードする場面もあり、日本人がそれに乗る形になった」など、受講者からは双方向の対話の楽しさを実感したという声が多く聞かれました。

また、外国人参加者からも「たくさん話せてとても楽しかった」「またこういった機会があれば参加したい」といった好意的な感想が寄せられました。

講座を終えた多くの受講者は、今後、地域の日本語教室や「にほんごサロン」などでの活動を検討されています。今後も、皆さんが有意義な活動を行えるよう、引き続きサポートしてまいります。



↑ 講座全体の様子



↑ 外国人を招いての練習

